

<自然との共生について>

【調査の目的】

県では、人と自然が共生した社会(※1)づくりを進めています。

そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって生物多様性(※2)の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、平成25年3月に「福岡県生物多様性戦略」を策定しました。

つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組みがどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきたいと思ひます。

※1 人と自然が共生した社会(自然共生社会)とは

人と自然(生きもの)が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

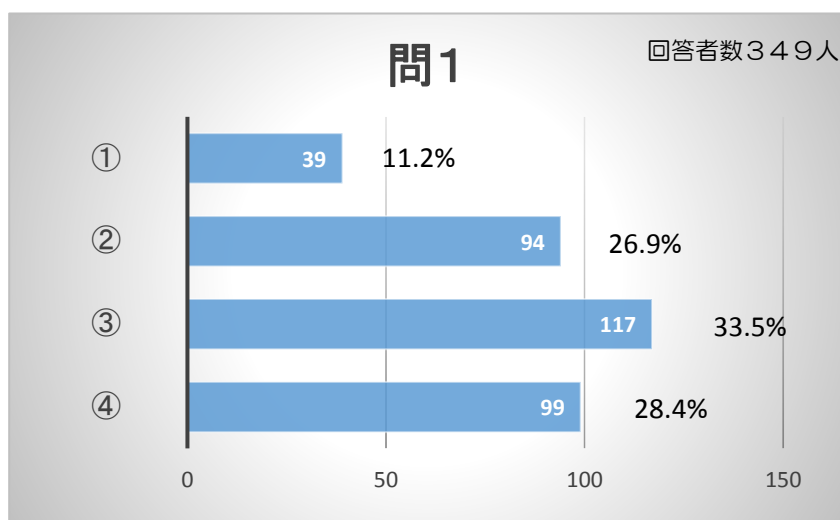
※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが「食べる―食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

(環境部自然環境課)

問1 「生物多様性」という言葉を知っていましたか。次の中から1つだけ選んでください。

- ① 内容をよく知っている。
- ② 内容をある程度知っている。
- ③ 言葉を聞いたことがある。
- ④ 全く知らない

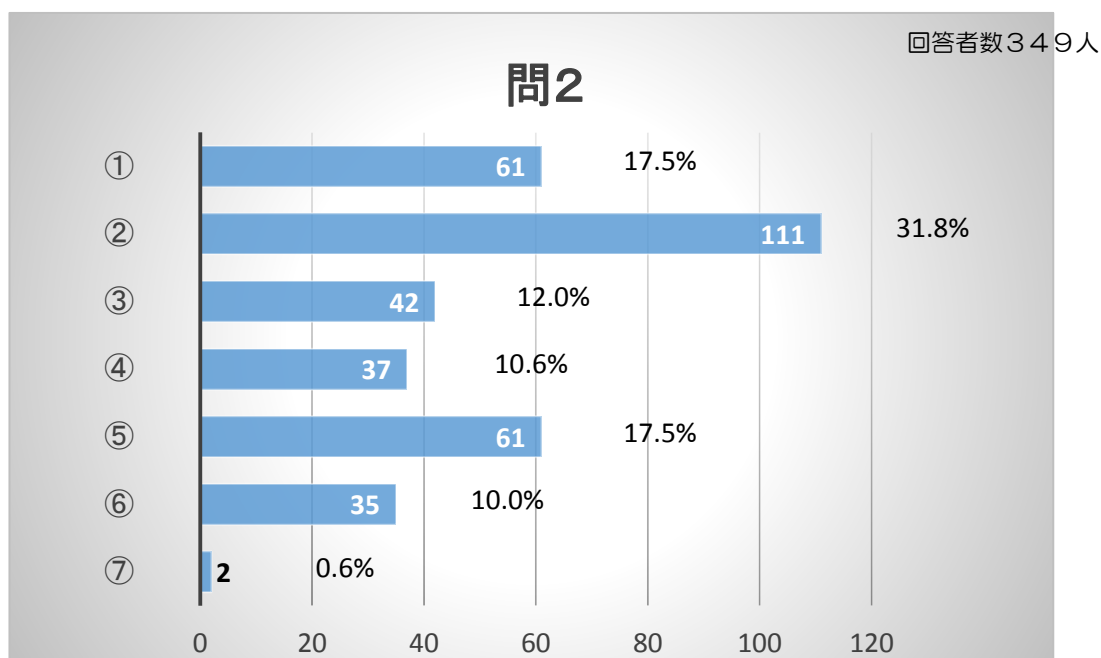


(参考)県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

	合計	戦略策定時の数値	
		①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%

問2 自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきであると思うことは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

- ① 絶滅の恐れのある野生生物(絶滅危惧種)やその生息地の保護
- ② 外来生物(ヒアリ、セアカゴケグモなど)の防除による人体、農林業、生態系への被害の抑制
- ③ シカやイノシシなど農林業・生態系への被害が深刻な鳥獣の生息数の調整
- ④ 田園や草原など里地里山を象徴する景観の保全
- ⑤ 環境に配慮した公共工事の推進
- ⑥ 県民が保全活動に参加できる仕組みづくり
- ⑦ その他(具体的な取組み)

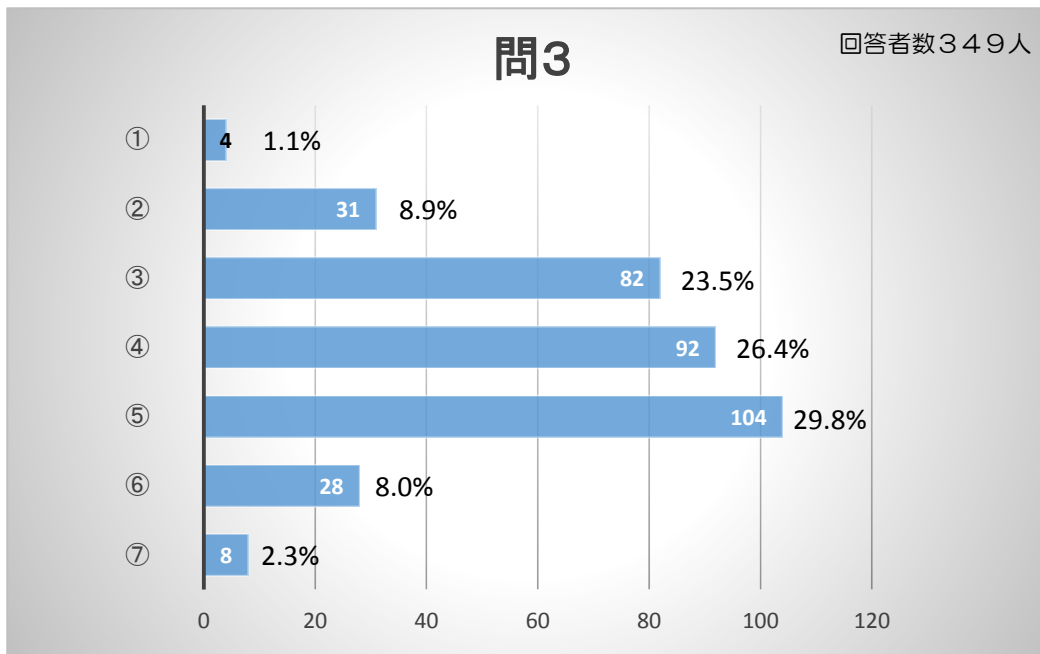


⑦その他(抜粋)

- ・公共事業や森林伐採などの推進により環境破壊は進んでおり、生物との共生、自然保護の観点からは相反する状況が進んでいるのでとても難しい問題かと思えます。
- ・自然の状態を破壊する各種開発の禁止(これ以上、自然を減らさない)、野生生物と共存できる環境の造設

問3 これまでに、自然環境や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

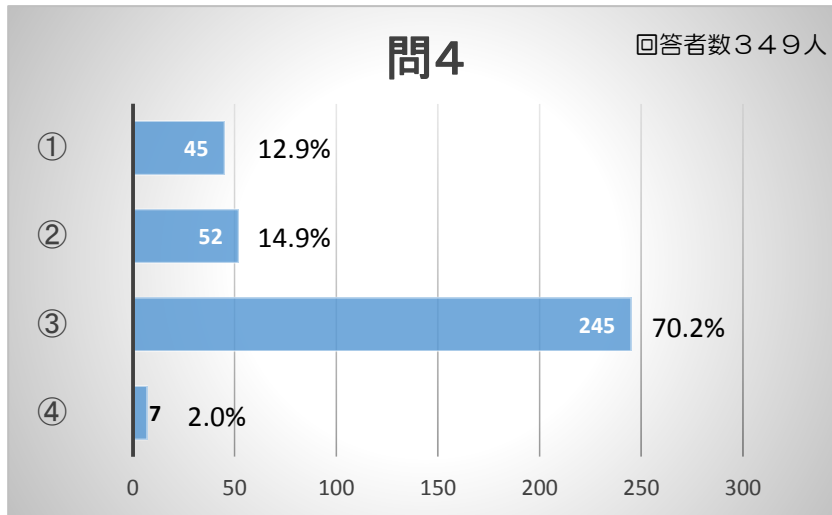
- ① NPOなどの自然環境保全団体に属しており、定期的に活動を行っている。
- ② 会員ではないがNPOなどの自然環境保全団体の活動に時々参加している、又は参加したことがある。
- ③ 保全活動に参加したことはないが、身の回りにある自然に興味を持ち、親しんでいる。
- ④ 保全活動への参加や身の回りにある自然とのふれあいに興味を持っているが、どうすれば参加できるのかわからない、又はきっかけがない。
- ⑤ 仕事や家庭など多忙であり、参加する時間がない。
- ⑥ 興味がないので参加したいと思わない。
- ⑦ その他(具体的な理由)



- ⑦ その他(抜粋)
- ・現役のころは緑化推進事業や森林保全などにも一部参加しておりましたが、今は一家でアウトドアが苦手な方ですのであまり参加の機会はありません。
 - ・活動したいを知らなかった為、参加していませんでしたが、機会があれば今後は参加したいです。
 - ・行政がやるべきだ
 - ・参加したいと思うが、いつどこでどんなボランティア活動があるか情報を得ることができないので参加できない。
 - ・子どもが小さかった頃は、エコクラブを家族で作りいろんな自然観察会や環境教室に参加していた。約10年間活動。

問4 あなたが自然環境や生物多様性の保全活動に取り組む場合、どのような活動を行いたいですか。次の中から1つだけ選んでください。

- ① 絶滅の恐れのある野生生物(絶滅危惧種)の保護
- ② 外来生物(オオキンケイギク、アカミミガメなど)の防除
- ③ 身近な野生生物(ホタル、ドジョウなど)が住みやすい環境づくり
- ④ その他(具体的な活動)

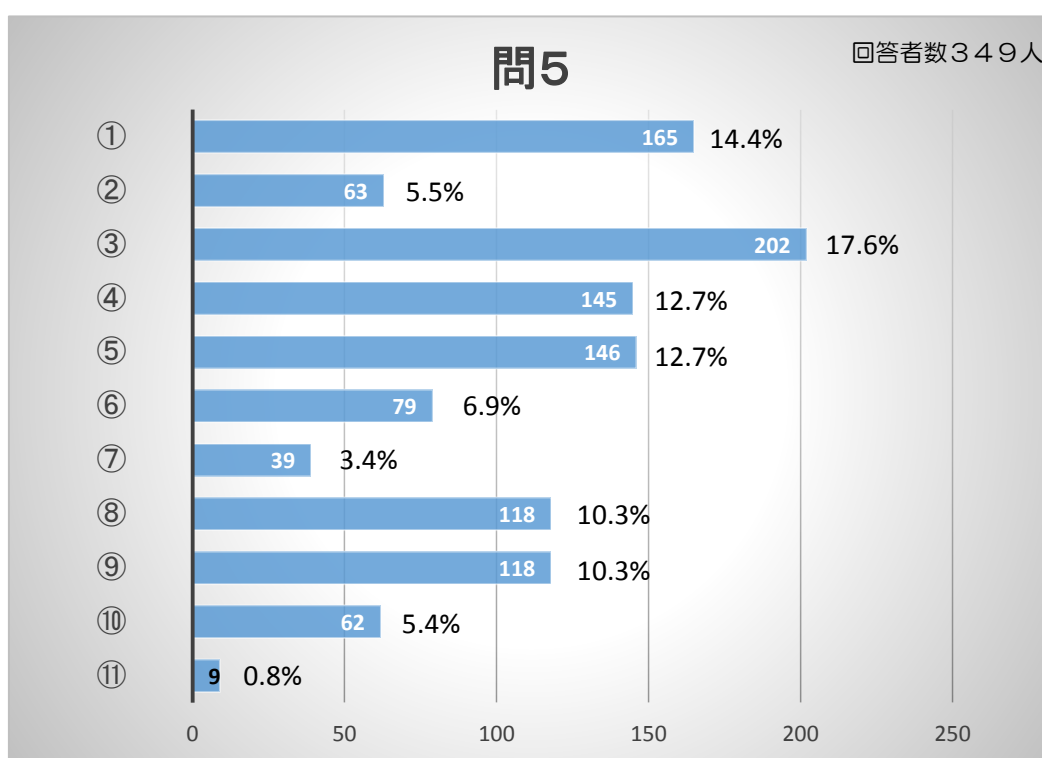


④ その他(主な意見)

- ・蚊の駆除。世界で年間72万人が蚊を媒介とした病気で亡くなっているにもかかわらず、日本は意識が低いので、日常に蚊の温床が溢れている。シンガポールでは、政府当局がモスクイトチェックの抜き打ちを実施しているようです。佐賀県が全国で一番蚊が多いという統計もありますが、力を入れて将来的に損のない分野だと思います。
- ・県内で市県民生活を脅かすイノシシやサルアナグマ等の捕獲やジビエ等条例の設定を真剣に考えていただきたい。
- ・読書ボランティア(ブックトーク「本の楽しさお届け便」会員)として、生物多様性を含め、年代に応じて子どもたちに資料を紹介することを意識的に行っています。日常的に新聞記事を切り抜きファイルして授業などで紹介しています。もっと子どもたちに「今現在」の状況、次代を担う子どもたちに意識付けしたく・・・
- ・外来生物の問題にしろ、ワシントン条約違反がもとなので、違反者についてはより厳しい処罰を行うべきだと思います。個人の意識が未熟としか言いようがありません。
- ・里山で シカやイノシシを捕獲する活動に参加してみたい。あるいは、そのような里山保全に参加したい
- ・ハイキングしながら清掃活動
- ・ジビエ等、「有害鳥獣」と呼ばれる生物の有効活用

問5 生物多様性を守るために、あなたはどのようなことを行っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- ① 自分のまちを散策して、身近な自然を感じる。
- ② 身近な生き物の名前を調べる。
- ③ 地のもの・旬のものを食べる。
- ④ 野生の生きものにエサをやらない。
- ⑤ 環境にやさしい商品を選ぶ。
- ⑥ 緑のカーテンを作る。
- ⑦ 生きもの観察会や環境保全活動に参加する。
- ⑧ ペットを最後まで飼育する。
- ⑨ 花や実のなる木を植える。
- ⑩ 自然についてできることを話し合う。
- ⑪ その他(具体的な活動)



- ⑪ その他(抜粋)
- ・生物多様性を守るためには、子供たちの教育から始めることが、必要なことだと思う。
 - ・人間の消費活動の制限が必要ではないか。特にマイクロチップの問題は早急に取り組む必要がある。
 - ・自然学校での体験プログラムづくりに参加してます。
 - ・グローバル化が進行している中、また、地球温暖化が進む中で日本古来から生殖している動物、植物はよくて外来種のヒアリなどの外来種はだめだといっても止めることが出来ないのではないのでしょうか。日本でも”マムシ”など日本古来の毒ヘビもいるので、行政などが正しい情報(安全、危険)を逐次情報発信することだと思います。その中で行政、地域の人々と情報共有しながら対応していければと
 - ・インターネットや図書館で、地球の誕生や生命の誕生について学んでいます。
 - ・地の食材を手に入れたら、それは絶対に食べ残しは致しません(食べ切り)